

救急車を呼んだ際の1・2・3！到着前後の注意点！



①



②



③

救急車は電話中に既に患者の地区に向けて出動し、並行して通信員が詳細な場所等を聞き取りします。ですので早く電話を切ろうとしないでください。

診察券、保険証等を用意。
また、アレルギーや食事の時間、病歴または治療中の病名、かかりつけであれば診療科目（主治医）等の情報を聞きますので、準備してください。

救急車が家の近くに近づいてきたら、外に出て誘導をお願いします。

処置の最中、絶対にしてはならないこと

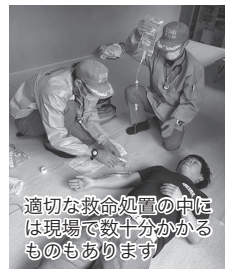
『すぐ救急車を出せ！』『早く病院に向かえ！』などの急かす行為



家族を思って一刻も早く病院に到着してほしい気持ちは痛いほどわかります。ただ、必ずしも病院に早く着くことが救命に繋がるとは限りません。

救急救命士は、本来医師でなければできない処置の一部を、現場で行うことができる存在です。

血糖値の測定、脱水や出血などで点滴に数10分要することもあります。その間にドクターヘリや搬送先の病院の選定など多くの判断が行われています。現場で行われている医療行為には全て意味がありますので、搬送を急かすような言動や行動は、厳に謹みましょう。



適切な救命処置の中には現場で数十分かかるものもあります

目の前で人が倒れた時、現場に居合わせた私たちが、命を守るためにできることは何でしょうか。上ノ国消防署に勤務する救急救命士の阿部島さんにお話を伺いました。



救急救命士
阿部島 礼

119番通報

「突然倒れたり、反応がない人を見たら、ただちに心停止を疑ってください。心停止の可能性を認識したら、応援を呼び、119番通報を行ってください。通報の判断に迷った場合も、まずは119番通報を行い、指示に従ってください。また、通報の際は、状態が確認できるように倒れた方のそばで電話してください。」

一次救命処置

「救急車が到着するまでに一次救命処置を行った場合は、救命率が高くなります。また、3分以上心臓が停止してしまうと脳にダメージを受けてしまいます。心停止を確認したら、ただちに心肺蘇生法を行ってください。」

近くにAEDがある場合は迷わず使用

「心停止の場合は、心肺蘇生法と併せてAEDを使用することで回復の確率が高まります。AEDは機械が操作方法をアナウンスしてくれるので、どなたでも使用できます。また、AEDの電流は必要な方以外には流れませんのでご安心ください。」

救命講習会

「いざという時、町民の皆さんに救命のお手伝いをしていただくため、上ノ国消防署では救急救命に関する講習依頼を受け付け、講師の派遣を行っています。お気軽にご相談ください。」

8月は特に注意が必要です！熱中症にご注意を！

近年の北海道は、全国最高気温を記録する日もあるなど、夏は暑い土地柄になりつつあり、そのような中で、熱中症の発生数も年々増加傾向にあります。

気温だけではなく、高齢化や家族の見守りがない独居世帯など熱中症弱者の増加も一因と考えられています。

熱中症は、室温や気温が高い中で、体内の水分や塩分などのバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなることで発症する症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。



救急救命士
角谷 匠

予防には次のことが大切ですので、日常的に心がけましょう！



喉が渇かなくてもこまめに水分補給



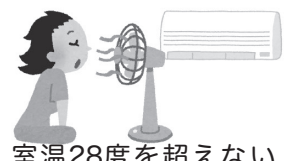
部屋の温度をこまめにチェック



体を締め付けない涼しい服装で、日よけ対策も



日頃から栄養バランスのいい食事と体力作り



室温28度を超えないよう、エアコンや扇風機を上手に使う

■お問い合わせ 上ノ国消防署 (☎0139-55-2071)